



# 地域おこし協力隊 活動状況報告



浦幌町の皆様こんにちは、地域おこし協力隊林業担い手担当の鴻野です。

昨年の9月に地域おこし協力隊に着任して1年が経ち、久々に活動報告を書かせていただきます。

最近の活動は、メイン業務の木製品などのデザイン設計と制作や、浦幌町民の方々がより森林に親しんでいただけるような心地よい森をつくるための森林グラウンドデザイン策定プロジェクトの原案制作や、木工ワークショップの講師、また京都や徳島の大学で非常勤講師として学生の指導などをしております。

その中でもとても印象的な業務は昨年の8月に浦幌小学校の5年生を対象として行った森林体験学習の木工教室での講師でした。今まで高校生や大学生、社会人向けにワークショップをしたことは数多くありましたが小学生に指導することは初めてでとても緊張したのを覚えています。

この時に5年生のみんなに制作してもらったのは「パンのための木皿」で、角食パンがピッタリはまるお皿をみんなに作ってもらいました。お皿を作ると言っても大きな形取りは木製品を製作している株式会社バトンプラスさんのS

hoppotという、パソコンで作った平面図を形通りにくりぬいてもらう機械を使い製作し、最後のやすりがけの部分をみんなにしてもらいました。僕はやすりがけは誰にでもできる安全で簡単な作業というだけでなく、最後にものに「想い」を込めることができる作業だと思っています。



機械から切り出しただけの材料はささくれが立っていたりザラザラしていたり、触り心地がいいとは言えないものですが、手を動かしてやすりがけすることで滑らかですと触っていたいものに変わっていきます。そしてこの作業の時に誰かが使うことを想像だけで仕上がり全然変わってきます。例えばお母さんに向けてだとか、おじいちゃんに向けてだとか、も

しくは弟がもしれません。もちろん自分に向けてでもいいです。想いを込める人が具体的に使っているイメージをすると自然と綺麗に仕上がっていきます。みんなにはそのことを伝え、時々作業の手を止めて触ってみることを積極的に促しました。きっとみんなの頭の中には自分が磨いたこのお皿を受け取った相手の顔が浮かんでいたことでしょう。



ちなみに僕はこのお皿をデザインするときは食パンの気持ちを考えていました。ご飯やお味噌汁には毎回決まった居場所があるのに食パンにはない！食パンにいつもいれる決まった居場所を作ってあげよう！と…  
なのでみんなが食パンを食べる時にあのお皿を使ってくれたら僕はとても嬉しいです。

●地域おこし協力隊 鴻野 祐 (こうの ゆう) 林業担い手担当

●木って楽しい！森にもっと行ってみたい！と思えるようなことを、デザインや芸術を通してできないかと日々模索中です。それが実現した際にはぜひ一緒に楽しみましょう！



●地域おこし協力隊の活動を紹介する隊員紹介 Facebook ページ

☆北海道浦幌町地域おこし協力隊 ⇒ <https://www.facebook.com/urahoro.chiikiokoshi>